ぷらとも

2023

WINTER

vol. 36

特集

ひろがる！児童期ユニバース

可能性は無限大！

ヤマハ音楽教室幼児科
保護者向け情報誌

MESSAGE FROM PURATOMO

ヤマハ音楽教室の願い

音楽の持つ力を信じて

人は落ち込んでいる時や、悲しい時に音楽に救われます。
また、嬉しい時や楽しい時は、
音楽がその気持ちをさらに盛り上げてくれます。

そんな「音楽」のすばらしさを伝えたい、という気持ちから
ヤマハ音楽教室では、教材やカリキュラム、講師の指導方法についても、
常にこだわりをもって研究・開発を進めてきました。

幼児期からヤマハ音楽教室に通うことで身につけた音感をベースに、
音楽を楽しめるようになってほしい。
大人になっても変わらずに楽しんでほしい。

ヤマハ音楽教室は、いつもそういう気持ちで音楽教育に
取り組んでいます。

ぷらトモってなあに？

みなさん、こんにちは。『ぷらトモ』は幼児科のお母さんお父さんたちと身近になりたい、仲よくなりたいという想いで2014年に発行されました。「『ぷらいまりー』のともだち」だから略して『ぷらトモ』です。よろしくお願いします！

音楽の楽しさを恩師が教えてくれた

PRIMARY
FRIENDS
OB&OG
INTERVIEW

ヤマハ音楽教室
OB&OGインタビュー

豪ノ山登輝（ごうのやまとうき）さん

力士

幼少時から兄と妹と3人でヤマハへ

ヤマハには、2歳から通い始め、幼児科、ジュニア科へと進み、その後5年生までピアノの個人レッスンを習っていたという豪ノ山関。

「2つ上の兄と、2つ下の妹と3人でヤマハに通っていました。母が音楽が好きで、それで習わせてくれたのだと思います」。

家にはピアノがあり、お母さまに教わった記憶もあるそう。

ヤマハでは発表会に出たり、グループレッスンが楽しかったという豪ノ山関ですが、5歳のときに相撲に出会います。

「そもそも小さい頃から体が大きくて、親が体を動かすスポーツもやらせたかったみたいです。地元の寝屋川市であったわんぱく相撲に参加したのが、相撲との出会いでした」。

初めての相撲は、とても楽しかったそうで、その後、毎週土日に相撲教室が開かれていると聞いて、小学校1年生から相撲教室に通うようになります。

「相撲は一瞬の勝負。その一瞬

にかけて毎日稽古をします。そんな勝負の世界が好き」という豪ノ山関は、地元大阪や近畿地区でも優勝して、どんどん頭角を現します。

小学4年生から全国大会に出場し、稽古もハードに。指や腕の怪我をすることも多かったそうで、ヤマハにはギプスを巻いて行ったことも。

2歳の時から習っていた阿江先生のレッスンがとにかく楽しかったので、先生に会いたくてヤマハに通っていたところもあるそう。

「演奏は全然上手ではなかった記憶があります。発表会でも『あ、やべ、俺ズレてんな』と思うこともありましたが、レッスンが楽しくて。グループのみんなとも仲が良く、行くのが嫌だと思ったことは、一度もありませんでした」と振り返ります。

憧れだった相撲の世界へ

小学校低学年の頃に相撲部屋で本物の力士を見て、強い憧れを抱き、「絶対力士になる」と意志を固めていたそう。しかし、大会や稽古でピアノとの両立が難しくなり小学校5年生のときにヤマハを卒業します。

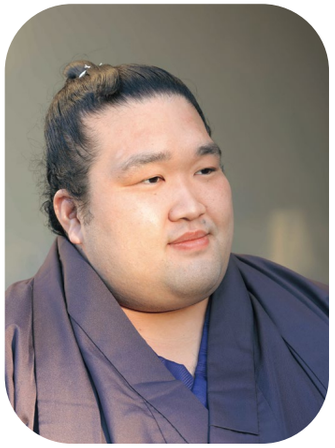
「親は一度始めたことは途中で辞めないという方針で、空手も長く続けていたのですが、本当に相撲がやりたいというのを理解してくれ、結果的に相撲一本になりました」。

中学校では柔道部に所属。大会に出場をするために校長先生にお願いをして、相撲部を創設してもらったそうですが、「実質部員が自分1人なので、柔道部に入って体を鍛えていました」と話します。

GOUNOYAMA TOUKI

＊

1998年大阪府生まれ。武隈部屋所属。小学校4年生～6年生まで、わんぱく相撲全国大会と全日本小学生相撲優勝大会に3年連続出場。中学では全国中学校体育大会に出場。埼玉栄高校に進学し、中央大学へ進学。1年生で全国学生相撲選手権大会ベスト32、4年生で学生選手権で個人準優勝。卒業後は境川部屋に入門。2021年3月場所で初土俵を踏む。幕下優勝1回、十両優勝1回、敢闘賞1回、現在東前頭4枚目。



中学生になっても妹さんがヤマハを続けていたので「ピアノの音が家で鳴ったりすると懐かしくてたまに触って弾いたりしていました」。

時々阿江先生に会いに行ったり、今でも交流は続いているそうで、「先生との交流が心の支えになった」と話します。

高校は、埼玉県にある埼玉栄高等学校に進学し、実家を出て寮生活に。

中央大学に進学し4年生では学生選手権で個人で準優勝し、大学卒業後は境川部屋に入門。2021年3月場所で初土俵を踏みました。

ヤマハで身についた人間関係の作り方

「発表会で大舞台に立っていたので、度胸が付いたほか、協調性やグループ活動、挨拶の基本など、ヤマハで学んできたことが、自分の基本になっていると感じています」。

さらに、「阿江先生に教えていただいた、『何事もやるからには楽しんで取り組もう』ということは、今でも自分の中での信条のひとつになっています」。

今の目標は「大関、関脇、小結の三役を目指すこと。これから上位の力士たちともどんどん当たっていくので、しっかり勝ち越したい」と語ります。

ヤマハの保護者へは「お子さんが将来音楽の道に進むかはわからなくても、ヤマハで学べることはたくさんあります。自分も、いい先生に出会えたり、生きていくための基本が身に付きました。お子さんが楽しく通えるように、ぜひ応援してあげてください」とエールをいただきました。

特集

ひろがる！ 児童期ユニバース

児童期には5つのコースがあります。
幼児科2年目の今ごろは、
そろそろ進級コースを選ぶ時期。
児童期にはどんなコースがあるのか、
どんな世界がひろがるのかを
ご紹介します！

ジュニア エレクトーンコース

グループ または 個人

エレクトーンならではの多彩な音色を操作しながら、豊かな表現力とアレンジ力を身に付けていきます。個人またはグループでのレッスン（月3回）になります。

ジュニア ピアノコース

個人

マンツーマンでジャンルを超えた幅広いレパートリーを学ぶことで、確かな演奏力を身に付けつつ、アレンジ力や楽典についての知識も学んでいきます。個人レッスン（月３回）のみのコースです。

ジュニア アンサンブルコース

グループ

ジュニア総合コース同様、ソルフェージュ学習やアンサンブルを行うことで総合的な音楽力をつけていきます。レッスンはグループレッスン（月３回）のみです。ジュニア総合コースにくらべてゆとりのある進度で進んでいきます。

ジュニア専門コース

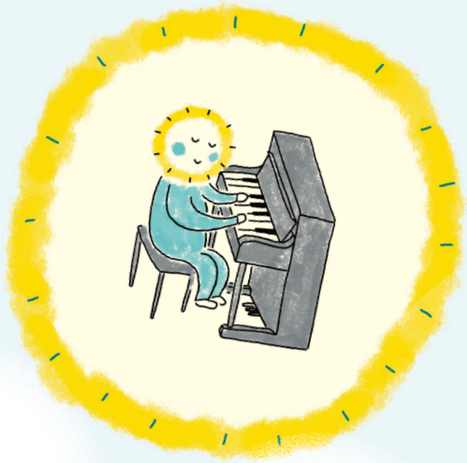
グループ ＋ 個人

専門的な教育を受けたい人のためのコースで、グループレッスンと個人レッスンの併用（2年目まで年40回、以降は月3回）で行います。演奏・創作ともにハイレベルな音楽力を身につけていきます。このコースに進級するためにはオーディションがあります。

ジュニア 総合コース

グループ ＋ 個人

グループレッスン（月3回）と個人レッスン（月1回、2回、3回から選択）の併用コース。弾くだけではなくソルフェージュ学習や、仲間とのアンサンブルなどで、総合的な音楽力を伸ばしていきます。確かな鍵盤演奏力やその子ならではのアレンジ力も磨いていきます。



児童期のレッスンの形態は3通りです

- グループレッスンと個人レッスンの併用
- グループレッスン
- 個人レッスン（ピアノまたはエレクトーン）

＊上記に加えて、個人レッスンを追加できるオプションレッスンもあり、演奏力向上やグレード取得などに対応します。
＊各コースの開講状況は、会場によって異なります。

ジュニア専門コース

エレクトーン大好き！

洞口愛理さん（小4）・優希さん（6才）・
勢津子さん［東京都／スガナミ楽器］
父親がエレクトーンを習っていたのが
きっかけでヤマハに。

小学校1年生のときはジュニア総合コースに在籍していましたが、本人の「もっとやりたい」という気持ちを汲んでジュニア専門コースへ。「いろいろなジャンルの曲が体験できるから、個人はエレクトーンを選びました」。

今はミュージカルのレッスンにも通っていて将来の夢は「音楽でみんなを笑顔にする人！」

可　能　性

無　限　大　！

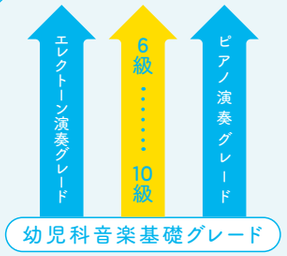
ギターのレッスンも

和氣夏子さん（小2）・夏彦さん
［千葉県／伊藤楽器］
休日には、地元の音楽イベントに
呼ばれて演奏することも。

コロナ禍で家にいることが多く、ギターを弾き始めたのがきっかけでヤマハのギターレッスンへ。

「もっと音楽について学びたい！」と今はジュニアスクールのギターとジュニア専門コースに通っています。

「楽器が弾けるようになるとうれしくて、思いついた歌詞にギターやピアノで曲をつけたり、どんどんいろいろなことをしたくなります。将来の夢はギタリスト＆シンガーソングライターでスターになること！」。



TOPICS

グレードにも挑戦できます

幼児科の修了時には、「幼児科音楽基礎グレード」といって、2年間で身につけた力を、生徒と保護者と担当講師で確認し、幼児科以降の学習目標を明確にするグレードがあります。児童期では、進級したコースの年次や修了時に合わせて、「ピアノ演奏グレード」または「エレクトーン演奏グレード」の取得をめざします。

目標とする級の目安は
こちらから

ジュニア総合コース

コンクールにもチャレンジ！

「友達と何かを一緒にやることが好き」だったのと「個人があるとより上達するよ」と母親からのアドバイスもあってジュニア総合コースへ。

レッスンは、「アンサンブルがみんなでうまく弾けたときが楽しい。個人のときは、先生と1対1なので30分、集中して弾いています」。

コンクールにも1年生のときから出ており、「コンクールは、出ると上手になるのがいいところです」。

有本若菜さん（小3）・京子さん
［愛知県／日響楽器］
おんがくなかよしコースからヤマハに。
将来の夢はアナウンサー。

ひ　ろ　が　る

TOPICS

グレードの7級を取得すると さらに音楽の世界がひろがります

グレード7級を取得するとどんな風に幅広く音楽を楽しめるようになるのか、高学年のレッスンの様子を通して紹介しています。

Youtubeは
こちら

丸山陽大さん（小3）・真理子さん
［北海道／ヤマハミュージックリテイリング札幌店］
ヤマハにはぷっぷるクラスから。
工作や読書も好きで、将来の夢は「本屋さん」。

ジュニアアンサンブルコース

レパートリーも楽しい！

「一人のレッスンは寂しい」という本人の希望と、「アンサンブルを楽しんでほしい」という親の想いもあって、ジュニアアンサンブルコースへ。

「1年生のときは学校も遠いし、ヤマハとの両立が結構大変だったけど、今は慣れてレッスンは楽しいです」。

幼児科との違いは、「レパートリーがたくさんあって楽しいこと。エレクトーンでベースをつけて弾けること」。

ひろがる可能性無限大！

YouTuberとして活躍する先輩も！

りっちゃんさん〔関東在住〕
夢はエレクトーンとピアノの二刀流で演奏家や作曲家になること。

３歳からヤマハを始め、今はジュニア専門コースに通う小学生でありながら、『りっちゃんの音楽 channel』という登録者数約 20 万人の YouTube 番組でも人気のりっちゃん。

「YouTube は小学２年生のときに始めたのですが、見ていてくれる方が応援してくれたり、YouTube がきっかけで、普段会えないような方たちとコラボできるのは楽しいです」。

また、自分が音楽を頑張ることで、「音楽のよさをたくさんの方が知ってくれるといいなとも思っています」とも。

コンクールやイベントにも参加！

６人兄弟姉妹の４番目で、全員が幼児科からジュニア専門コースに。

「お母さんのおなかの中にいたときからヤマハに行くのは決まっていたと思います（笑）」。

出演している兄たちが賞を取っているのを見ていて、自然と「自分も挑戦したい！」と思うようになり、YJPCをはじめJOCにも出演しています。

「お辞儀をするまでは緊張しているのですが、演奏が始まるとそこに集中できます。学校で前に出たり、積極的に発表できるのも、コンクールやイベントでの経験が役立っていると思います」。

徳永響律さん（小4）・美穂さん
〔福岡県／ヤマハ西新センター〕
物を作るのが大好きで、最近はまっているのは折り紙。

TOPICS

『奏デンジャー外伝』もあります！

幼少＆小学校時代にヤマハで学んできた"コト"が、今の自分にどう繋がっているかに迫るドキュメンタリー。16歳～22歳の先輩OBOGが登場しています！

Youtubeはこちら

非認知能力も身に付きます！

數光みどり
先生
（豊岡短期大学
こども学科 准教授）

ヤマハ音楽教室システム講師を経て研究職の道へ。
専門は音楽を通した乳幼児教育。

数値では測れない、人が生きていくために必要な力を「非認知能力」と言い、近年注目を浴びています。

実は、ヤマハ音楽教室のグループレッスンや「総合的な音楽力を育てる」といった目標には、非認知能力を育む要素がたくさん含まれています。

具体的には、グループレッスンでは他者と関わる力や感情をコントロールする力を、総合的な音楽力を育てる過程では、豊かな音楽的感性とともに、好奇心やチャレンジする力といった非認知能力が育てられています。

保護者の方は「できる・できない」だけで判断せず、お子さんの様々な才能が開花していく様子を楽しみながら長い目でお子さんの成長に寄り添ってもらえるといいと思います。

コース選びのポイント

長く続けられるようその子に合わせた選択を

萩原由加李
先生
〔群馬県／ヤマハミュージックリテイリング高崎店〕
自身もヤマハ出身。レッスンでは一人ひとりの成長をよく見た声がけを心がけているそう。

小学校に入ると、お子さんの生活もがらっと変わります。日々のルーティンの中にヤマハの家庭学習をどこに組み込むかなど生活の見直しも必要になります。

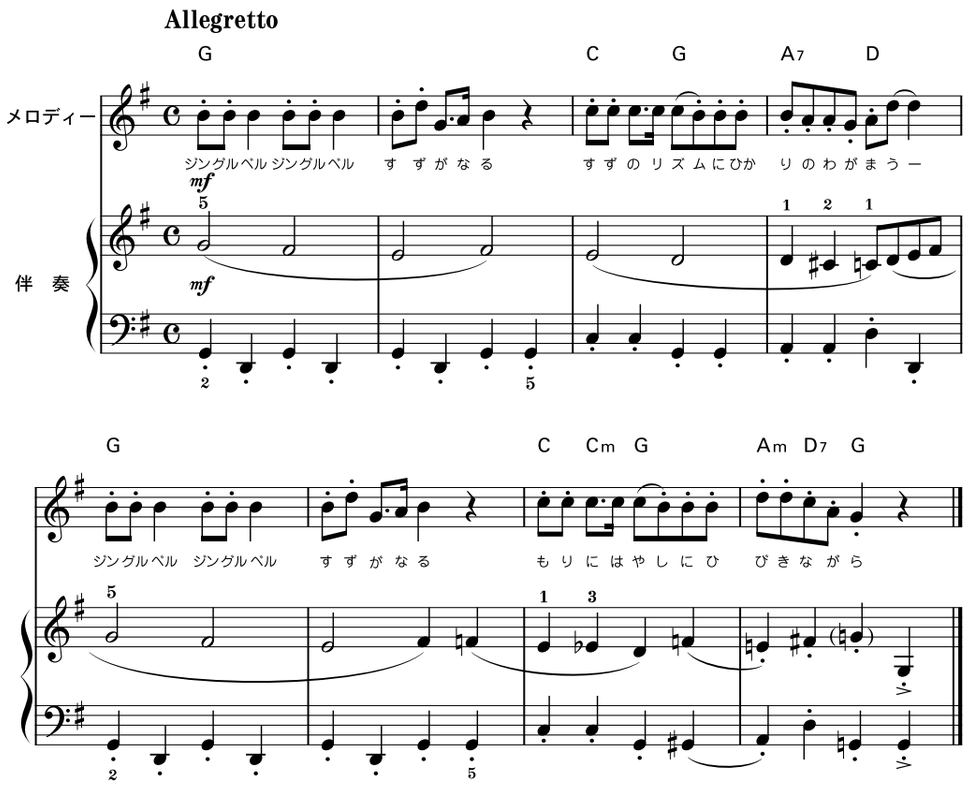
コース選びは、保護者の方の意向もあると思いますが、お子さんにどのコースが合っているか、今の担当の先生と、先を見据えてよく相談してみるといいでしょう。

具体的なイメージを持つために、各コースのテキストを実際に見るなどしてもいいですね。

Score

"ジングルベル"

作詞：宮澤章二
作曲：J. ピアポント
編曲：清澤久恵



JASRAC 出 2308435-301

How To Play

こうやって遊ぼう！

羊毛フェルトの挿絵・イラスト作家として活躍しているYOMOさんによるサンタクロースさんです。楽しいクリスマスを想像しながら歌ったり弾いたりしてみましょう。

参考音源はこちら

PURATOMO SQUARE

ぷらトモひろば

「ぷらトモひろば」では、全国の生徒のみんなや、
お母さん・お父さんたちからの
すてきなお便りを紹介したりヤマハ音楽教室にまつわる
素朴な疑問に一生懸命答えたりするよ。
もっとわたしたちのことを知ってほしいから。

週一のレッスンは夫に下の子を預けて、娘と二人で通っています。まだまだ下の子のお世話にかかりきりになる毎日なので、1時間のレッスンと行き帰りの道中での娘との時間がとても貴重に感じています。（東京都　さよさん）

ママを1人じめ！

姉がコンクールに出たので、幼児科に通っている妹と一緒に会場で演奏を聴きました。広いホールでの堂々とした姉の演奏は印象に残ったようで、「小学生になったら同じ曲を弾きたい！」と。これからも、コツコツとレッスンを頑張ってほしいなと思います。（神奈川県　みょうじんさん）

憧れのホール

私はピアノを弾いたこともなければ楽譜も読めないのですが、子どもと一緒に練習しているうちに少しずつ弾けるようになりました。こっそり練習して一緒に弾くのが夢です。（京都府　詩歌さん）

連弾に挑戦！

おんがくなかよしコースの時はよく「行きたくない！」と言っていたのでやめようかと思ってましたが、先生にアドバイスを受けながら続けたところ、幼児科になってからは一度も言っていません。先生がいつもいいアドバイスを下さるので、心強いです。そして先生に感謝です。（埼玉県　まことんさん）

先生もうれしいな

レッスン中の発表で緊張しながらも、弾き終えた時の笑顔に成長を感じます。（千葉県　まゆまりママさん）

ドキドキにこにこ

INFORMATION

「奏デンジャーⅢ」が放送決定！

ヤマハ音楽教室の魅力を楽しく伝える番組『～音楽ヒーロー・ヒロイン～「奏デンジャー」』のシーズン3の放送が決定しました（2024年2月～3月／全8回）。番組は実際の教室をMCが訪問し、生徒の皆さんとレッスンを体感する企画の他、今シーズンからは、現役生徒さんの日常に密着した映像も放送される予定です。さらに新たなMCも登場予定！

放送情報

- 『ヤマハJOCチャンネル』（YouTube）
- ケーブルテレビ（全国11局）

※URL、放送局、時間はサイトを確認ください。
※新しいMCの発表は2024年1月を予定。

奏デンジャー再生リストはこちらから

Q&A ABOUT YAMAHA

ヤマハ音楽教室にまつわるそぼくな疑問

Q. 歌の音程が合いません。この先合ってくるでしょうか？
（北海道　あさあんさん）

A. 徐々に歌えるようになるので、楽しく歌う機会を増やしましょう
この時期のお子さんにとって、正しい音程で歌うことは簡単なことではありません。

成長と共に声帯が発達し、先生の真似をしたり弾きながら歌ったりして、次第に正しく歌えるようになっていきます。今は想像力豊かに楽しく歌い、歌うことが好きになってほしいと思います。

Q. 家では指番号を変えて弾きやすいように弾いてしまっています……。
（埼玉県　うりさん）

A. まずは楽しく弾くことを大切にしましょう。
ご家庭でも弾こうという気持ちを大切にして、楽しく歌って弾きましょう。
その上で、レッスンで先生がどんなことを話していたか、一緒に思い出してみるのもいいでしょう。

PUPPLE CORNER

ぷっぷるクイズ

まちがいが5つあるよ！
さがしてみてね。

やってみよう！

［そたこ］

©YAMAHA MUSIC FOUNDATION

ONPYU STORY

おんぴゅだよ

作：やばい

作：やばい

主婦。10歳の男の子のママ。漫画『おしゅしだよ』（KADOKAWA）が話題に。

HUMOROUS POEM

おもしろヤマハ川柳

＊

テーマ

「子育てあるある」

寝言でも
歌っているよ
ドレミファソ

愛知県　あかりんごの母さん

ぶどうのパン
私も弾いた
我が子も弾いた

福岡県　アヤミさん

幼稚園
帰るとすぐに
ピアノへGO！

香川県　りんりんさん

編集後記　そういえば、最初『冬のソナタ』の「ソナタ」は「其方」と思っていました。てっきり平安時代からタイムスリップする日本のドラマかと思いました。（アートディレクター 寄藤文平）／最近気になり始めていた相撲。今回のOBOG取材をきっかけに、ますます相撲に興味津々！（編集＆ライター 長谷川華）／特集取材では、幼児科のレッスンで芽生えた生徒さんたちの好奇心が、小学生になりみるみる開花していく様子が伝わるお話をきかせていただき、まさに「可能性は無限大」を実感しました！（ヤマハ音楽振興会ぷらトモ編集C）

ぷらトモ　vol.36　2023 冬　令和６年１月１日発行　通算 36 号
イラスト：こいずみめい（特集部分）
撮影：森安照（豪ノ山関さんインタビュー部分）
アートディレクション：寄藤文平
デザイン：三浦裕一朗（文々研）
周佐直彰（Mo-Green Co.,Ltd.）
垣内晴（文平銀座）
企画・編集協力：門前貴裕（株式会社アンテポルタ）
下関崇子
長谷川華（はなぱんち）
印刷：共同印刷マーケティングソリューションズ株式会社
発行所：一般財団法人ヤマハ音楽振興会
〒153-8666 東京都目黒区下目黒 3-24-22
0570-075-808
発行人：串田厚司

WANTED

『アンケート＆お便り』募集！

『ぷらトモvol.36』の記事について、みなさんのご感想、ご意見を募集中です。『ぷらトモ』を一緒に作ってくれる「ぷらトモ隊」への応募もこちらから！

1. ヤマハ音楽教室や子育てに関するエピソード
2. ヤマハ音楽教室にまつわるそぼくな疑問
3. 子育てあるある川柳　を募集しています。

応募は以下のアドレスかQRコードから。
https://jp.research.net/r/KBFPBST
（応募は2024年2月末日まで）

抽選で１名様に豪ノ山関さんの直筆サインをプレゼント！

大判ハンカチを全員にプレゼント！

抽選で10名様にぷっぷるブランケットをプレゼント！

【個人情報について】いただいたお名前、ご住所、ご連絡先などは、誌面掲載のご連絡やプレゼントのお届けに必要な情報の確認に使用し、その他の目的では使用いたしません。

YAMAHA MUSIC FOUNDATION
©2023 by YAMAHA MUSIC FOUNDATION

商品コード TZZ01110130 -ZZ036